

県立高萩高等学校【総合的な探究の時間計画】（令和 8 年度）

学校の教育目標

<p>(1) 生徒と教職員がお互いを信頼し、協働して成長できる学校</p> <p>(2) 一人一人の多様性を認め、個に応じた支援をする学校</p> <p>(3) 柔軟なカリキュラムで、希望に応じた進路実現を目指す学校</p> <p>(4) 誰にでも居場所があり、安心して自己実現が図れる学校</p> <p>(5) 主体的な学習や体験を通し、社会性や勤労観を育む学校</p>
--

総合的な探究の時間の評価

目標と育成する資質・能力	学習評価	配慮を必要とする生徒への支援方法
<p>【目標】自己の在り方・生き方について、探究活動を通して課題を発見し、適切に解決することができるようになる。そのために、以下の資質・能力を育成する。</p> <p>【育成する資質・能力】</p> <p>(1) 自己実現を図り、社会で生き抜くための課題を見出し、解決するために必要な知識・技能を身に付ける。</p> <p>(2) 課題解決に向けて、他者との協働・連携を図りながら必要な情報を得て、得た情報から自らに必要な解決方法を見出す力を身に付ける。また、それを他者にわかりやすく伝える手法を身に付ける。</p> <p>(3) 自己の在り方・生き方は自らが構築していくことであると気づき、主体的に考え、自らの能力を社会で活かす姿勢を身に付けさせる。</p>	<p>【信頼される評価方法：結果だけでなく過程を評価できる工夫】</p> <p>(1) 授業担当者間で評価観点・評価基準の共有を図る。単元開始前、中間、最終に担当者会議を実施する。</p> <p>(2) 最終結果だけでなく学習過程の評価の工夫を図る。探究計画、中間・最終発表、ワークシート、生徒の振り返りシートを活用する。</p> <p>(3) 生徒一人一人の良い点や可能性に着目する個人内評価の充実を図る。できること・わかることが増えたかどうかを個々の能力に応じて評価する。</p> <p>(4) 第三者評価の活用を図る。活動内容の発表・展示時に、保護者・地域社会の人々による評価。</p>	<p>・個に応じたきめ細かな指導の実践</p> <p>・不登校傾向の生徒への支援強化</p> <p>・教育相談体制の充実</p> <p> *SC・SSW・CA・萩かふえの活用</p> <p>・地域との連携強化</p> <p>・チーム学校の体制強化</p> <p>・通級指導の効果的な実施</p> <p>*SC:スクールカウンセラー</p> <p> SSW:スクールソーシャルワーカー</p> <p> CA:キャンパスエイド(大学生等)</p> <p> 萩かふえ(NPO 法人居場所づくりの協力のもと月 1 回、高萩高校で開催)</p>

様式 1

各学年における主な取組内容

「総合的な探究の時間」を課題研究等で代替している場合の科目名（なし）

学年	主たる探究課題及び学習活動	外部との連携	育成を目指す生徒像
1年	<p>入学直後から、自己理解を深めるためのワークや、思考ツール（マインドマップ、KJ法等）の活用法を学ぶ。これらのスキルを活用して、これまでの自分の生い立ちや印象的な体験を書き出し、それを短い作文にまとめる活動を通して、言語化の基礎訓練を行う。「道徳」教材や心理学的なアプローチも併用し、グループワークを通して他者理解を深め、安心して自己開示できる集団づくりを目指す。</p>	<p>地域行政機関との連携：市役所、博物館、茨城キリスト教大学等</p>	<p>【1年次】「自分を見つめ、他者につながる」（自己理解・他者理解）</p> <p>（1）自己のこれまでの経験を振り返り、言語化することで、自己理解を深める。</p> <p>（2）自分と他者、自分と社会とのよりよい関係を考え、他者と協働するための基礎的なスキルを身に付ける。</p> <p>（3）自らの課題として捉え、情報を整理・分析する手法を習得する。</p>
2年	<p>本年次の活動は、1年次での活動も踏まえたうえで、自身の体験を基に、「自分がどう変わり、何を学んだか」という視点で深く掘り下げ、論理的な文章構成で原稿を作成する。必要に応じて各教科もと連携し、社会的な視点も取り入れる。また2年次での活動は、全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会とも関連させ、クラス内発表、校内発表会を経て、代表生徒は県大会・全国大会を目指す。その他の生徒も、互いの発表を聞くことで多様な価値観を学ぶ機会とする。</p>	<p>地域企業との連携：インターンシップ、企業人講演会、企業見学会</p> <p>地域行政機関との連携：市役所、ハローワーク、博物館等</p>	<p>【2年次】「体験を通して、自分の未来を描く」（生き方・進路探究）</p> <p>（1）自らの体験（生活、学習、行事等）を深く掘り下げ、その意味や価値を論理的に構成し表現する力（生活体験発表の基礎力）を身に付ける。</p> <p>（2）働く意義について考え、インターンシップ等の体験活動を通して職業観を養う。</p> <p>（3）他者の発表を聞き、多様な生き方に触れることで将来の展望を持つ。</p>

様式 1

<p>3年</p>	<p>これまでの集大成として、地域社会の課題解決に向けたグループ探究を行う。設定したテーマ（地域の伝統、活性化等）について調査・検討し、解決策を提案発表する。並行して、卒業を控えた時期に、3年間の学びや自身の変化を振り返り、改めて自己の生き方を文章化する機会を設ける。これは進路活動（志望理由書や面接）ともリンクさせ、進路実現にむけた活動の一環とする。</p>	<p>地域企業との連携：インターンシップ、企業人講演会、企業見学会</p> <p>地域行政機関との連携：市役所、ハローワーク、博物館等</p>	<p>【3年次】「社会とつながり、未来を拓く自分」（地域・社会参画）</p> <p>（1）地域社会の課題を見出し、解決策を探究する過程で社会との関わり方を考える。（2）3年間の自身の成長と社会との関わりを振り返り、自己の在り方生き方としての「志」を表現する。</p> <p>（3）多様な他者と協働し、合意形成を図りながら課題解決に向かう姿勢を持つ。</p>
-----------	--	---	--